



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 4 月 1 9 日 (土)

発行 館長 加 藤 智 一

大阪・関西万博に行ってみました その 1

まずは、入場までの道のりからお話しましょう。前乗りしていた大阪梅田の宿から地下鉄御堂筋線に乗りまして、本町で地下鉄中央線に乗り換え、万博のために新設されました終点夢洲駅で降り、入場予約の際に指定されました東ゲートへ。入場開始の 9 時にはすで大勢のお客さんが押し寄せておりまして、30 在入場ゲートはどれも長蛇の列。ここでスマホの QR コードを見せなければいけないのですが、その画面にたどり着くまでが、高齢者には一苦勞。やっと画面が出たと思って安心していたら、そこから 40 分ほどかかってようやく入場。手荷物検査が渋滞の原因なんだな。ようやく入場できたところで、さてどこ行こうか？何せ広いものだから目移りしちゃって右往左往。とりあえず入館予約してある日本館に行くには、ちょっと時間があつたので、予約なしで入れるマレーシアとかフィリピン共和国なんかを見て廻り、10 時 50 分に予約してあつた、日本館へ。

ところがここでまた一つ、大きな壁が立ちちはだかることになるうとは!!なんと万博会場に入るときに必要なだった QR コードを再び提示しなければならないのであつた。しかし通信障害か？なかなか繋がらず、日本館入口付近では、同様の高齢者が入館担当職員と、あーでもない、こーでもないと、入館前から四苦八苦状態。ここでようやく気が付いた。QR コードをスクリーンショットしておけばよかったんだ!!!全く高齢者には優しくないシステムだと文句たれながらもようやく館内へ。日本館のコンセプトは、どうやら「循環型社会の最先端」の紹介らしい。万博会場で発生した生ゴミはバイオガスプラントへ運ばれ、館内で使用する電気を全てまかなうことになっているとか。そこで活躍するさまざまな微生物は、なんと「キティーちゃん」とコラボ。化石資源への過度な依存から脱却する鍵として注目されている藻類の可能性を 32 種類の藻類に扮した「キティーちゃん」がかわいらしく伝えてくれました。また会場には、藻類を混ぜ込んだバイオプラスチックでできたツールがあちこちに配置されているのですが、これを作り出す様子を紹介するコーナーもあり、実際に 6 月には慶応大学のスタッフによる実演が行われることになっているのだそうです。「持続可能な社会の在り方」とはちょっと違うのですが、会場内で多くの方

が注目していたのが、「火星の石」。火星に降り立った人間はいないはずなのになぜ？これは 2000 年に日本の南極地域観測隊が発見したもので、火星から運んできたわけではありません。幅 29cm、高さ 17.5cm、重さ 12.7kg の火星由来の隕石です。また、JAXA の小惑星探査機「はやぶさ」と「はやぶさ 2」が持ち帰った小惑星イトカワ、リュウグウから採取された「試料」の展示もありました。そんな中、意外と地味に楽しかったのは、関西空港に設置されている「通信相手と触れ合える」というなんとも不思議な装置を通してのコミュニケーション。関西空港と日本館、双方向で写し出されているモニター画面の両脇に設置されている「手」の形をしたツールに自分の手を置くと、関西空港から話しかけてくれた見知らぬ相手の手の圧力を感じることができるという代物。声や姿だけでなく、相手の存在を圧で感じることができるというのは、なんとも新鮮な体験でした。

さて、日本館を後にした私が、次に向かったのは、アメリカとフランス。実は、大屋根リングの内側にある外国のパビリオンは、予約なしで入れる所がけっこう沢山あるのです。アメリカもフランスもその一つ。しかし、そこから入館までなんと 40 分待ち。周りの日本人が話しているのを聞いていたら、昨日は 2 時間待ちだったとか。40 分程度で文句は言えない。入館してみると、さすがアメリカ。月の石に見とれる間もなく、あつと言う間に火星旅行に連れて行ってくれました。なんともダイナミック。フランスはと言えば、ファッションブランドの世界。シャネルやら、なんちゃらディオールやらで、何とも賑やかなこと。女性にはたまらない空間なのでしょうね。

